

(様式1)

自己評価表 (令和3年度)

愛媛県立宇和島水産高等学校
学校番号 (41)

<p>教育方針</p>	<p>人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者としての普遍的な資質を養うとともに、我が国の水産業界・海洋関連業界を進歩発展させるために必要な専門的な知識と技術を習得させ、職業人として国家社会に貢献する有為な技術者を育成する。</p>	<p>重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 我が国水産業・海洋関連産業の産業的使命を自覚させ、国際感覚を持った職業人としての資質（能力・気力・体力）と実践力を育成する。 職業人として必要な自律・協同及び勤労の精神を培うとともに、時代に適応した知識・技能を身に付けたスペシャリストを育成する。 実践体験を通して学習意欲を喚起し、問題解決能力や創造性の育成に努め、自主的に研究する態度を養う。 一人一人の個性に応じた指導を心掛けるとともに、豊かな人間性の育成に努める。 地域社会との連携を深め、水産・海洋教育の振興に努める。
-------------	--	-------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習の習慣化	1日2時間以上の家庭学習を確保させる。 A: 2時間以上 B: 1時間30分～1時間59分 C: 1時間～1時間29分 D: 30分～59分 E: 29分以下	C	平日49.1分(D) 休日58.7分(D) 考查中143.8分(A)	クラスによって学習時間に差があるが、特に平日や休日の家庭学習について継続して指導していきたい。
	基礎学力の充実	校内漢字テスト・英単語テスト・計算力テストにおける80点以上の生徒の割合40%以上となるよう指導する。 A: 各7回以上 B: 各6回以上 C: 各5回以上 D: 各4回以上 E: 各3回以上かそれ以下	B	漢字テスト8回(A) 英単語テスト4回(D) 計算力テスト6回(B)	英単語が例年達成できていないため、特に力を入れて指導していきたい。
	言語活動の充実	各科目において、自分が調べたことや学んだこと、自分の考えを発表させる。 A: 10割の生徒が活動できた B: 8～9割 C: 6～7割 D: 4～5割 E: 3割以下	B	自己評価4及び3 (88.4%)	授業によっては発表させる機会が少ないこともあるが、来年度も引き続き取り組んでいきたい。
	思考力・表現力の育成	年間3冊以上の本を読む生徒100%を目指す。 A: 100% B: 90%以上～100%未満 C: 80%以上～90%未満 D: 70%以上～80%未満 E: 70%未満	E	貸出冊数を1冊読んだものとしてカウントを行った。全校生徒138人に対して本を借りた生徒数は87名で、貸出総数は186冊となった。割合としては全体の15%である。現在では読書をする必要性が様々な所で言われており、読書を習慣化させるための対策を学校全体で考えなければならない。	今年度の目標より、年間3冊以上読むためには、読書をする時間を確保したり、家庭での読書時間を設けさせる必要がある。ただ、読書は無理やりさせるものではないので、1年次に習慣化させる必要があると考える。もっと図書室に興味・関心を持てるような工夫を考えていきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	1か年皆勤者、各学年65%以上を目指す。 A: 65%以上 B: 60%以上～65%未満 C: 55%以上～60%未満 D: 50%以上～55%未満 E: 50%未満	B	昨年度より評価基準を5%引き上げた。しかし、前年度とほぼ変わらない割合となった。	欠席者数もだが、遅刻、早退者が多くなってきている。家庭としっかり連携し、不安要素の解消、本人の意識向上を図りたい。
	豊かな心・健やかな体の育成	身だしなみ指導での再指導者数、各学年5%以下を目指す。 A: 5%以下 B: 6% C: 7～8% D: 9% E: 10%以上	A	再指導になるものは各学年5%以下である。再々指導になるものは少ない。	ホームルーム活動、生徒集会を利用して、引き続き説諭をしっかりと行いたい。
	豊かな心・健やかな体の育成	特別活動や個人面接等を通して、気力・体力・人権意識を養い、学校生活の充実度100%を目指す。 A: 100% B: 90%以上～100%未満 C: 80%以上～90%未満 D: 70%以上～80%未満 E: 70%未満	A	部活動加入率は数字上では100%である。しかし、コロナ禍の状況で公式・練習試合、研究発表、産学連携の県外活動など、思ったような活動を実施出来なかった。	生徒人数は減少している。在籍生徒をしっかりと指導していきたい。次年度より、この項目を部活動加入率に変更したい。
	奉仕精神の育成	ボランティア活動をする生徒90%以上を目指す。 A: 90%以上 B: 80%以上～90%未満 C: 70%以上～80%未満 D: 60%以上～70%未満 E: 60%未満	A	1学期7月、海の日に生徒80名が、漁協と協力して清掃活動を実施した。 2学期10月、学校前高架橋下の草刈りを全校生徒参加で実施した。	来年度も新型コロナウイルス感染状況次第である。
	安全教育の徹底	交通マナーを徹底し、登下校、休日の事故件数ゼロを目指す。 ヘルメット着用100% A: 事故0 (着用100%) B: 事故3以下 (着用95%以上) C: 事故5以下 (着用90%以上) D: 事故7以上 (着用85%以上) E: 事故8以上 (着用85%未満)	C	事故は発生しなかったが、地域から交通・駐輪マナー、ヘルメット未着用の苦情が計4件あった。	今年度は県指定の交通安全推進実践校に指定され、数々の交通マナーに関する取り組みを実施してきた。交通マナーに関しての関心は一時的には高まったが定着するには至らなかった。引き続き、生徒集会などを利用して、説諭を繰り返し行っていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	第1志望校合格100%を目指す。 A: 100% B: 95%以上～100%未満 C: 90%以上～95%未満 D: 85%以上～90%未満 E: 85%未満	A	進学希望が多い年であったが、全員が第一志望校に合格する事ができた。	次年度も進学希望者が多い年である。学校推薦や指定校での進学が主となる現状では、資格取得等アピールできるよう指導しておく必要がある。
		水産・海洋系分野（大学、専攻科）への進学希望者15名以上の合格を目指す。 A: 15名以上 B: 11～13名 C: 8～10名 D: 5～7名 E: 4名以下	A	専攻科10名、大学3名、短期大学1名、短期大学校1名が、水産、食品系の進学を決めた。	生徒数の減少もあり、Aが15名以上の目標には無理があるため、目標値の変更も考えたい。
	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A: 100% B: 95%以上～100%未満 C: 90%以上～95%未満 D: 85%以上～90%未満 E: 85%未満	A	就職希望者が全員内定をもらう事ができた。	早い段階から、就職先についての意識を持たせる必要がある。
		就職希望者の水産・海洋・食品系分野への就職率65%以上を目指す。 A: 65%以上 B: 60%以上～65%未満 C: 55%以上～60%未満 D: 50%以上～55%未満 E: 50%未満	A	水産、海洋、食品系分野への就職率は7割を超えた。	担任との面談に加え、各科での指導も必要と思われる。
	資格等取得者の増加	資格試験等に積極的に取り組ませ、卒業時に一人1資格以上の取得を目指す。 A: 100% B: 90%以上～100%未満 C: 80%以上～90%未満 D: 70%以上～80%未満 E: 70%未満	D	一人1資格以上の取得は7割台にとどまった。	コロナ禍も影響していると思われるが、生徒の意識を向上させる必要もあると思われる。
業務改善	時間外労働の削減	業務の効率化を図り、時間の有効活用を図るとともに、有給休暇の更なる取得促進に努める。	B	多くの先生方が有給休暇の取得に努めるとともに、時間の有効活用を図ることができた。	教職員に対する更なる意識付けと業務の平準化に努めることが必要である。
	職場環境の整備	衛生委員会の活用及び健康相談や健康講座の実施に努め、教職員の疲労の早期発見や心理的負担の軽減を図る。	C	コロナ禍のため、健康講座等の実施はできなかったが、衛生委員会等を通じて、教職員の疲労の動向等については早期に発見することができた。	健康相談や健康講座の開催に努め、更なる意識の向上を図りたい。また、事務課と連携を密にし、施設設備の改善にも努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。